


教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校)

実践年度・タイトル		平成28年度
		テレビ電話アプリを活用した学校間交流
授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	沖縄県立の特別支援学校との交流学習
	授業の目標	日本最北の特別支援学校である本校と、日本最南、最西の特別支援学校である沖縄県立の特別支援学校との交流を通して、色々な人とかかわったり、北海道とは異なる地域に住む児童生徒と触れ合ったりすることで、豊かな人間性を養うことを目的とする。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input checked="" type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他()
学習集団と子どもの実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input checked="" type="checkbox"/> 特定されない 全校児童生徒 34人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子どもの課題 (特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input checked="" type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 日常生活において行動範囲が限られ、遠出する機会も少ないため、自分が住んでいる地域以外について知る機会が少ない。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像 (使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	iPad Air2(アプリ名:FaceTime)、AppleTV、プロジェクター、モバイルルーター、マイク、アンプ
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input checked="" type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) 直接会いに行くことが難しい遠方の学校との交流において、テレビ電話を活用し、直接対話することを通して、自分が住む地域と異なる地域に住む児童生徒の様子を知り、コミュニケーションすることの楽しさを知る。
授業に授業展開支援	授業展開と画像 (授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。)	交流実施前後に接続テストを実施し、お互いのネットワーク状況の確認を済ませた。iPadの画面を、AppleTV経由でプロジェクターからワイヤレスで映し出すようにした。生徒はスクリーンを見るように座り、上映担当の教員がiPadを持って移動しながら生徒の活動の様子を追った。お互いの学校紹介や歌・踊りの披露などで交流した。また、本校からはグラウンドに出て雪上での活動も紹介した。 実施回数 ・全校1回 ・小・中学部1回 ・高等部1回   
効果・評価	子どもの様子や変容および授業の評価	2学期末に全校児童生徒が集まって実施したテレビ電話による顔合わせ会では、スクリーンに映し出された相手校児童生徒の姿に歓声が上がり、カメラに向かって手を振るなど、自ら積極的にコミュニケーションを取ろうとする様子が見られた。 高等部の交流では、スクリーン越しの相手に思いを伝えようとリアクションをとり、相手校の歌の披露ではリズムに合わせて手を振って共に歌うなど、心を通わせる交流を行うことができた。また、iPadをワイヤレスでつないだことで、グラウンドに出て屋外での活動の様子を中継することができ、外での生き生きとした生徒の姿を相手に伝えることができた。 小・中学部の交流では、iPadのカメラが自分の前に来ると手を振ってコミュニケーションをとろうとする様子が見られ、スクリーンを通して相手校のダンスを集中して見る事ができた。